

The cover features a light blue background with a white grid pattern. Two stylized hands, one in a darker teal and one in a lighter teal, are shown holding a globe. The hands are positioned diagonally, with the left hand at the bottom left and the right hand at the top right. The text 'ANNUAL REPORT' is written in a bold, blue, sans-serif font, following the diagonal path of the hands. The word 'ANNUAL' is on the left hand, and 'REPORT' is on the right hand.

ANNUAL REPORT

Hikari Yamada · Mia Yamamoto
Mikino Naito · Yoshino Furuya

TEAM 捨我精進

「個性」とは何を指すのだろうか。

昨今、個性を育む教育や環境に注目が集まっている。しかし、それでもまだ、世間の「当たり前」によって息苦しさを覚える人はいる。

私たちは、誰もが個性を存分に発揮できる社会を目指している。

1.問題

私たちが取り上げるテーマについて考えた時、LGBTの問題という意見が挙がった。

近年、LGBTという言葉が普及し、学校や企業等に対応が行われるようになっていくが、これらの対応は「特別扱い」であり、根本的な解決策とは言えない。

このことから私たちはLGBTを含む個性を「当たり前」とし、それらが尊重される社会を作りたいと考え、個性を表現する方法の1つである服装、さらに私たち高校生にとって身近である制服に着目した。

男女関係なくスカート・スラックスを選択できる制度は徐々にではあるが普及している。それに対して、リボンやネクタイに対する対応は、あまりなされていないのではないか。そこで、社会を改善するためにまずは小さなことから考え、ネクタイとしてもリボンとしても使用可能で身近なユニバーサルデザインのリボンを作ろうと考えた。

2.活動報告

①ヒアリング調査

2018年12月11日、菅公学生服の紹介で、トランスジェンダーの西原さつきさんから話を伺った。ご自身の体験及びユニバーサルの制服デザインを中心に質問をし、約2時間のお話を通して以下のような回答をいただいた。

- 1) 学校で指定されていた学ランを着用しなければならぬことが精神的負担だった。
- 2) 男らしさを求められること、男性であること自体が負担だった。

- 3) LGBTという言葉は普及してきているが、特別扱いされてしまう。
- 4) 幅広いセクシュアリティの人が自由に選択できる制服が必要。
- 5) 全ての個性が当たり前のものとして受け入れられる社会になればいい。

以上のように、誰でも気軽に買えるユニバーサルデザインの制服・アイテムのニーズがあるということが確認できた。また、西原さんはこうありたいと思う姿で生きることができることを「**本来の姿に戻った**」「**呪いが解けた**」と表現された。このことから、少しの変化でも大きな助けとなる可能性が高いことが分かった。

②ユニバーサルデザインの

リボンの商品開発

私たちは学生服メーカーの菅公学生服株式会社(以下菅公学生服)のご協力をいただいて、ユニバーサルデザインのリボンの共同開発に取り組んだ。2019年1月7日に菅公学生服のショールームを訪問した。その際、事前にリボンの原案を3つ作成し、菅公学生服・株式会社たまきに試作品の作成をお願いした(下記写真参照)。

2019年2月8日、改めて本校にて試作品の商品について意見を伺った。この際、菅公学生服に私たちが持ち込んだ原案の改善案3つに加え、新規案を1つ提案していただいた(下記(C))。それを私達は「Universal design × Tie」を略して、「**UNITIE**」と名付けた。



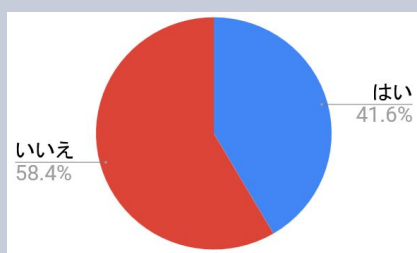
(A) (B) (C)

製品化の手順に関する課題や、長さ・太さの調節などデザインに関する課題が挙げられた。今後これらの改善点を解決して、商品開発および商品化をめざしたい。

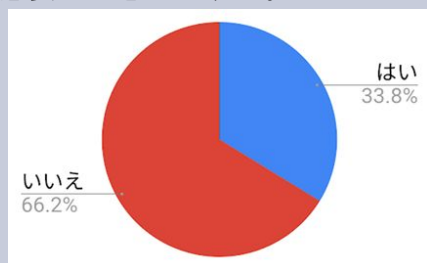
③アンケート調査

2019年2月13日、本校の高等部1年生154人にLGBT及び試作品のリボンタイに関するアンケートを行った。その結果は以下の通りである。

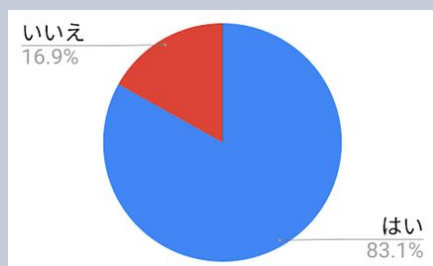
1)男性がスカートを履くこと、あるいは女性がズボンを履くことに違和感や抵抗感がありますか。



2)中学校や高等学校で男女の区別がある制服は必要だと思いますか。



3)もし、ネクタイ・リボンどちらとしても使うことの出来るリボンタイがあったら買いたいと思いますか。



4)「個性を活かせる社会」、といったときに、どのようなことが大切になるか、自由に挙げてください。

- ・固定観念をなくすこと
- ・全員が自分の意見を堂々と言えること
- ・同じが正しいという概念を捨てること

[考察]

質問1)から、個性の多様さが知識としては普及しているが、大多数の人にとって普通であると捉えられていないものもあり、状況の改善が必要である事が分かる。また、質問2)、3)から実際に現在制服

を着用している学生からの視点から見ても、私たちの「UNITIE」には需要があると考えられる。

最後に自由記述で回答を募った質問4)から、固定観念をなくし、個性を表現することが当然となることが求められていることが分かった。

3.今後の展望

私たちは今後の活動の発展に向けて次の3つについて取り組んでいきたい。

- 1 制服メーカーとの共同開発
- 2 各校独自のデザインでの販売
- 3 全国への普及

①今回私たちは大手学生服メーカーである菅公学生服に協力していただき、商品開発を行った。今後、見つかった課題を改善し、デザインや用途の幅を広げていきたい。

②各校の既存の制服にも適応できるように、生地や校章など、その学校独自の方針を取り込んだデザインも実現できるようにしていきたい。

③今回は商品開発のみ行ったが、今後はこの活動を全国に広めることを通して、各校間のネットワークなど、個性について考えるきっかけにしたい。

以上3点を主な軸とし、人格が形成される教育現場で個性が抑圧されるという矛盾を解消していく手助けとなるプロジェクトにしていきたい。

4.このプロジェクトの社会的意義

[SDGs]

4 幼い頃からの教育を

幅広い選択肢が用意された制服を学生のうちから身に着けることによって、将来社会に出たときに一人ひとりが個性を活かせるということが当たり前になるだろう。



5 性別にとらわれない

制服を例にとると、男性だからネクタイ、女性だからリボンではなく、このプロジェクトを通して一人ひとりが性別にとらわれずに好きなタイをしたり、スカートやズボンを履いたりできると考えた。男性らしさ、女性らしさの区切りをなくすることができるだろう。

⑩ 個性を活かせる社会に

男子は学ランやネクタイ、女子はセーラー服やリボンなどの性別で制服を決められてしまう場合などの規制が多い。このプロジェクトを通して制服という決められた枠のなかでも個性を活かせるようになると考えられる。



[デザイン面・経済面]

デザインに関しては、一つのものからリボンとしてもネクタイとしても使用できることから、精神的な統一感が得られる。一方経済的な面から見ると、一般的に市販のリボンは1,500円、ネクタイは2,000円程度である。どちらも購入する場合約3500円となるのに対し、「UNITIE」は2,000～2,300円で購入が可能である。この価格は、販売店を流通した場合の販売価格を昔公学生服から提示していただいたものである。

2つ購入する場合に比べ1,200～1,500円の差額となり、メリットとなる。

5.最後に

私たちの「UNITIE」は個性を表現することを「当たり前」にします。「UNITIE」を身につけた学生たちの「こう生きなければならない」という“呪い”が解かれたとしたのなら、一人ひとりの可能性も、社会全体の可能性も広がるだろう。

— 「特別」を「当たり前」に。

【参考資料・HP】

- ・リセマム,2018,「世田谷区立中の制服、男女別なくスラックス・スカート選

択を検討」

<https://resemom.jp/art>



[icle/2018/03/20/43647.html](https://resemom.jp/art/icle/2018/03/20/43647.html)

- ・Yahoo!ニュース,2019,「女子中学生の制服もスラックス 世田谷・中野区で選択可」,<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190129-00000104-asahi-soci> 2019/01/26 アクセス
- ・Yahoo!ニュース,2019,「性別に関係なく制服選択可能に 東京・中野区立中

小6アンケきっかけで」,<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190126-0000028-mai-soci>

2019/01/26 アクセス

